

研究名：

医学部3年生の西崎病院および関連施設の実習評価

研究目的：2026年1月に初めて琉球大学医学部3年生の実習を受け入れた。8名ずつ2日に分けて1日実習を実施。実習後にアンケート調査を行ない、内容と日程についての評価を検討する。

研究方法：アンケート調査のまとめ

研究期間：2026年1月～2月

研究対象者：琉大医学部3年生16名

研究対象者について：アンケートの内容について個人情報保護されることを書面で承諾を得た。

研究代表者：西崎病院 院長 山城清二

利益相反：なし

今後の対応：県医学会に発表後、論文作成をする。また、次回の実習の参考にし、よりよい実習になるように努力する。

第 140 回沖縄県医師会医学総会抄録

演題：琉大医学部 3 年生の西崎病院および関連施設での実習評価

目的：医学生の実習先は主に大学病院あるいは急性期病院、または地域中核病院や診療所で実施されているが、慢性期医療病院やその関連施設の実習はほとんど実施されていない。そこで、今回、琉球大学医学部 3 年生（地域枠学生）16 名の 1 日実習を受け入れ、その実習の評価を行った。

方法：2026 年 1 月に琉大医学部 3 年生 8 名ずつ 2 日（1 月 21 日、28 日）に分けて一日実習を実施した。実習施設は、西崎病院（慢性期医療）、サクラビア（介護老人保険施設）、朝日の家（特別養護老人ホーム）、ソフィア（障害者支援施設）の 4 施設である。8 名は 2 グループに分かれて、午前中 2 施設、午後 2 施設を回って実習した。今回は初回の試みでもあったので、各施設の役割理解と見学を中心とした実習となった。実習後のアンケート調査（施設の役割理解度、印象に残ったこと、良かったこと、改善してほしいこと、自由記載）を実施し、実習評価を行った。

結果：全ての施設において、実習後に理解度が有意に向上していた。特に介護福祉施設については事前の知識が乏しいため、実習後の理解度は非常に上がっていた。内容については、多職種連携の実感、生活を支える医療への視点、現場のリアリティ等を感じていた。改善点として、短時間の実習に対してスケジュールの時間配分とゆとりがほしいという意見が多かった。

結論：初めて医学生を受け入れて次のことを実感した。1.慢性期医療や介護老人施設での理解向上には一定の効果があった。2.多職種連携や実際の取り組みに参加したいという希望があった。3.反面、自習時間が短かったので、もう少し時間をかけて深く理解をしたかったという希望も多かった。4.受け入れ側でも、学生の指摘は新鮮であり、自分達の施設の内容を見直す機会になった。5.次回から、さらに内容の検討と準備資料の充実が求められると実感した。

（字数 761 字）

（参照・更新用パスワード：0526sy）